

田原南部校区

次世代へ「盆踊り」を

「盆踊りを知らない子どもたちのために」と
田原南部校区では、若者が中心になって盆踊りを復活させました。
関係者の方に、お話しを伺ってみました。



青 年会の解散に伴い、約10年前
になくなってしまった盆踊り。それを復活させようと、田原南
部校区の若者たちが「やぐら会」を
立ち上げ、盆踊りを中心とした「夏
まつり」の開催が始まりました。そ
こには、どんな思いが込められてい
るのでしょうか。



▲高さ5mもある櫓(やぐら)。上からの眺めは圧巻

盆踊りの主役は「やぐら会」

杉原伸二さん（平成23年度代表）

―復活に取り組んだ理由は？

青年会がなくなり、若者が参加できる校区の行事が少なかったということ、それから、「子どもが盆踊りを知らない」というのも大きな理由です。盆踊りを次世代に伝え、継承してほしいと考えています。

―復活までの道のりは？

何から手をつけていいかわからない状態でしたが、当時の校区総代に相談したら、「若者中心で実行委員会を立ち上げれば、校区行事として費用の一部も負担できる」と言ってくれただき、うれしかったです。一番苦労したのは人集めでした。組の集会に出たり、農作業中の若者に片っ端から声をかけたりしました。その甲斐あって、平成19年度に第1回目の「夏まつり」を開催でき、老若男女



▲杉原代表(右)と中神校区会長(左)



▲ずらりと並んだ地元有志による屋台

問わず約300人も人が集まってくれました。今では、各組が屋台を出してくれるようになりました。―これからの方向性は？

―一時の復活で終わることなく、運営を次の若手に引き継いでいくことが大事だと思います。それと、『大久保音頭』がスローテンポなので、もっと親しまれるような編曲も必要だと思います。

夏まつりに期待すること

中神進さん（平成23年度校区会長）

昔は、太鼓や踊りの練習が聞こえてくると、夏を実感したのですが、そんな風物詩を、校区の若手が復活させてくれてうれしく思います。夏まつりを通して、校区民の絆が一層深まることを期待しています。